

顔の見えるふれあいセンターを目指して！

東北森林管理局津軽白神森林環境保全ふれあいセンター

自然再生指導官 ○山上 裕行

自然再生指導官 川村 幸春

1 まえがき

平成18年4月に全国で11番目の森林環境保全ふれあいセンターとして、青森県鮭ヶ沢町に設置された当ふれあいセンターは、これまで世界遺産白神山地周辺地域や十二湖・岩木山・屏風山周辺の約8万haを活動フィールドとして、森林環境教育や自然再生活動等を多くの森林ボランティア団体と連携して取り組んできた。

これまでの活動状況を通して、今後の当ふれあいセンターの在り方や方向性を取りまとめた。

2 過去2年間の取り組みと結果

まず、ふれあいセンター開所以来、関係自治体や教育委員会、各学校を個別に訪問して、ふれあいセンターの業務内容等を説明してきた。

しかしながら、18年度は各学校とも年度内の行事変更は難しく、森林教室が2回と低調な結果に終わり、自然観察会の開催についても秋1回のみで開催と全てが後手後手にまわり、今後の取り組みに大きな課題を残す結果となった。



18年度自然観察会

このことを踏まえ、特に学校関係については、18年度中から、森林教室の実施に向けた取り組みを行い、年度末には独自のリーフレットを作製し、各学校等を改めて個別に訪問した。



西海小森林教室

また、1月と3月にはこれまでの活動を写真パネル等で伝える「活動展」を鮭ヶ沢町と青森市で開催した。

19年度は、自然観察会を3回開催することができたが、参加者数が募集人員の半数以下と自然観察会の在り方などに大きな課題を残した。

森林教室については、4回と実施回数を増やすことができ、木造西中学校全校生徒61

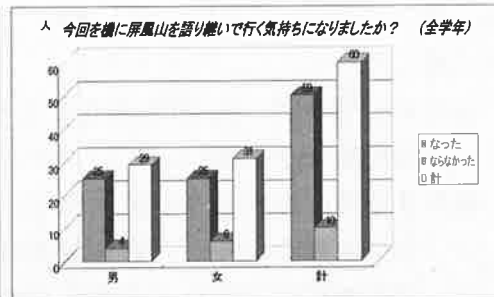
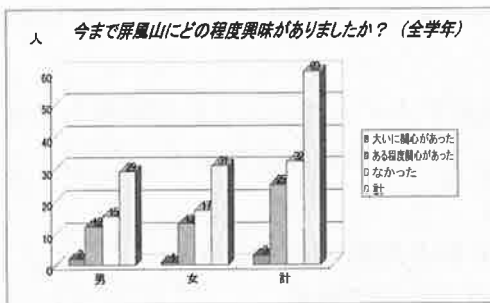
名を対象とした森林教室では、「屏風山の歴史」等の座学と現地での「海岸林の造成」等の見学を行い、終了後アンケート調査を行った。

アンケート調査では、今まで屏風山にどの程度興味がありましたかでは、興味がなかったが全体の半数を超えていまし

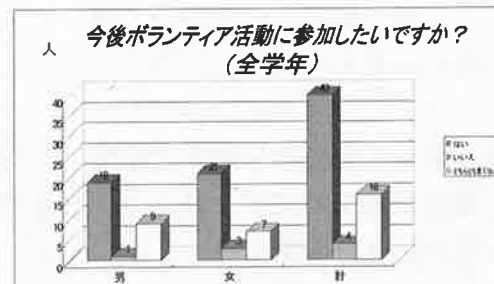


木造西中学校森林教室

たが、今回を機に屏風山を語り継いで行く気持ちになりましたかでは、全体の83%が語り継いで行きたいと答えていました。



また、今後ボランティア活動に参加したいですかでは、全体の67%が参加したいと答えるなど、今回の森林教室の実施が、生徒たちが住んでいる屏風山地域の長年の歴史・先人たちの苦労などが、これからこの屏風山地域を担っていくであろう生徒たちに、少しは手助けになったと思っている。



次に、職員の派遣については、各方面から職員の派遣依頼があり、18年度6回、19年度は11回職員を派遣してきた。



障害者福祉施設白神案内



もったいないキッズ植樹会

講演も18年度は建設業界の安全衛生大会、青森市民講座において「白神山地」についての講演を行い、19年度も青森市民講座、白神山地解説員研修会等で講演を行ってきた。



建設業界安全衛生大会での講演



青森市民講座での講演

自然再生活動への支援・協力では、毎年多くのボランティア団体が白神山地周辺地域で自然再生活動を行っており、ふれあいセンターでは毎回技術・安全指導を行っている。



鉋研磨の指導の様子

広報活動については、18年7月にホームページを立ち上げ広報誌「津軽白神ふれあい通信」を毎月発行し、19年度末に内容を充実させたパンフレットを作製し、関係機関などに配布したほか、各学校を訪問して、改めてふれあいセンターの業務内容等を説明した。



エルムの街で活動展開催

19年度も1年間の活動内容を写真パネル等で伝える「活動展」を開催し、五所川原市「エルムの街」で開催した活動展でアンケート調査を行った。

アンケート調査では、良い点として、「知らなかった白神について知ることができて良かった」「写真を見て、活動している人たちの白神を想う気持ちが伝わった」などの声があった

が、悪い点では、「PR不足」という声があり、今後も引き続いたPR活動が必要だと改めて感じた。

ふれあいセンターに期待することがありますかでは、「人と自然との共生」「毎年このような活動報告をお願いしたい」など、多くの期待の言葉があった。

過去2年間の取り組みを振り返ると、

- 自然観察会が4回、森林教室が6回と回数的にも少ない。
 - 自然観察会開催などの事前PRが不十分である。
 - 自然観察会の資料の不備。
- 等々が考えられた。

3 20年度の取り組みと結果

過去2年間の反省を踏まえ、20年度は、地元の特徴を活かすことを盛り込むなど新たな取り組みを展開した。

まず、活動展でのアンケート調査内容から、広報誌に20年度の自然観察会の計画予定を掲載し、自然観察会に興味を示した方々に送付した。

また、自然観察会の資料は見やすく、写真を多く使用し、別冊でフィールド内の動植物の冊子等を作製し、自然観察会の見所の写真パウチを同封することとし、自然観察会の内容も「巨樹・巨木巡り」などを取り入れ、年4回開催した。



第1回自然観察会

その結果、第1回目の自然観察会は、募集人員が定員に達するなど、これまでのPR効果が現れはじめ、中には「エルムの街」での活動展に来られた方で、本年度の自然観察会、全てに参加していただいたご婦人もあり、その友人の方々も参加していただくなど、つなが

りの輪が広がってきた。

また、複数回の参加者が多くなり、参加者の多くの方々から、内容の濃い説明や資料の豊富さにお礼のハガキなどが、多く送られてきた。



自然観察会（巨樹・巨木巡り）

このリピーターが増えたということは、自然観察会に満足され、次回の自然観察会にも期待している証しと考え、ますます今後の自然観察会への取り組みに対する意欲が湧いてきた。

3年間の自然観察会の参加者の推移は、18年度は75%でしたが、19年度は37%と低い数値となった。

しかし、20年度は1回目100%となるなど、全体で65%となり、少しずつだが、参加者が増え、ふれあいセンターの自然観察会の内容等に満足され、PR効果が現れてきたと考えている。

開催回数	募集人員	参加者数	参加率	開催回数	募集人員	参加者数	参加率	開催回数	募集人員	参加者数	参加率
1	20	15	0.75	1	20	7	0.35	1	20	20	1.00
				2	20	7	0.35	2	20	9	0.45
				3	20	8	0.40	3	20	13	0.65
								4	20	10	0.50
計	20	15	75%	計	60	22	37%	計	80	52	65%

18年度

19年度

20年度

20年度の森林教室の実施は、鱒ヶ沢町教育委員会・津軽森林管理署等を連携を図りながら、小中学生や教師に対して5回開催した。

職員の派遣依頼も、白神山地ビジターセンター・日本ユネスコ協会青森支部・五所川原農林高校などから、13回依頼があり対応した。



西海小ふるさと学習



大阪府立香里丘高校修学旅行



五所川原農林高校体験学習



鱒ヶ沢高校総合学習

その他のPR活動として、弘前市で行われた「カルチュアロード」で写真展示やパンフレットの配布、鱒ヶ沢町で開催された「第4回青森県山・川・海の感謝祭」にも参加し、白神山地及びふれあいセンターのPRを行った。



弘前市「カルチュアロード」



「青森県山・川・海の感謝祭」

また、昨年12月には、「白神山地」が世界遺産に登録されてから15周年を迎えたということで、白神山地を懐に抱える鱒ヶ沢町で、次代を担う子供たちを対象とした15周年記念イベント「白神山地をもっと知ろう！ 親子で学ぶ白神山地と木工教室」を開催し、国営テレビでも取り上げられた。



このように、自然観察会や森林教室等は実施回数も年々増えてきており、参加者数についても、増加傾向にあるなど、「ふれあいセンター」の存在が一般の方々に徐々にではあるが浸透してきたと考えている。

また、職員の派遣や講演依頼についても、年々増加しており、大げさな言い方かもしれないが「鱒ヶ沢町にふれあいセンターあり！」と言ってもいいと自負している。

4 考察

これまで3年間の活動は、他のふれあいセンターや森林管理署等でも行っていると思うが、当ふれあいセンターのフィールド内の特徴を最大限に活かし、我々職員も自己研鑽に努めて、前回より少しでもレベルアップに繋げることが大切であり、毎年開催している「活動展」についても、内容に強弱をつけるなど創意工夫することが大切である。

「継続は力なり」の言葉のとおり、来年度も「より良いものを」を念頭に置いて、職員のスキルアップを図り、真に「顔の見えるふれあいセンターづくり」に取り組んでいきたい。